

画面

小さな画面の中に全てが映し出される

無数の眩きも

オーロラの光も

権力者の尻の穴も

あいつの家の玄関や居場所

そして裸体も

社会システムの蠢きも

枯れることのない泉

ここにはあらゆる事実がある

これ以上の何が要るのだ

参加も自由だ

お互いの動静を窺うことができる

そして間違いをチェックし合えばいい

新たな市民社会という共同体——

ギリシャ時代の美しい理念の再来だ

ここには新たな生態系がある

情報という名の事実をエネルギー源として

それを電子化する CPU

それをばら撒く機器

それに食い入るように見入る者

それに反応した結果生まれる事実

再生産の輪

私が私であるという

そんな面倒くさいことは必要ない

むしろ邪魔

溺れてしまう原因になる
個であることは保障されているし
どこに属するかは全く自由
選べばいいだけだ

しかも、何度でも選びなおせばいい
気に入らなければ友人だって
家庭などというものに
今時どんな意味があるというのか
どんな充足が存在するのか
癒しの素などどこにでも転がっている
拾い上げ、捨てればいい

快樂も山のようにある
窓さえ開けていれば
向こうから飛び込んでくる
生命維持に必要なものを得るだけの
わずかな収入を確保さえすれば
他に何が要るというのだ
汲み尽くせぬほどの世界だ

この小さな画面の中に全てがある

(2011.9.17)